

学校経営構想

生徒の実態
保護者の願い
地域の願い

学校教育目標
自分の未来とふるさとの未来を切り拓く生徒の育成
校 訓
立志 友愛 剛健

県の指針
北の教育指導計画
大館市の教育

目指す生徒の姿

共感的協働力を備えた生徒

目指す学校の姿

ふるさとと共にある学校

愛校心・郷土愛が支える 東中三大自慢

あいさつ・歌声・東中太鼓

礼儀正しく美しく
笑顔でおもてなし

心一つに
響き合うハーモニー

伝統を引き継ぐ
鳳凰太鼓と闘魂太鼓

〈経営の重点〉

- 1 学習指導 「思考力・判断力・表現力の育成」
 - (1) 「鳳凰タイム」を軸とした共感的・協働的な学びの実現
 - (2) 授業の基礎・基本（東中スタンダード）の徹底
 - (3) 諸調査や学習アンケートを基にした授業改善
 - (4) 道徳教育の充実→道徳科の指導方法の研究
 - (5) 家庭学習の充実
- 2 生徒指導 「礼儀正しく美しく」
 - (1) 校内外における礼儀正しく美しいあいさつ
 - (2) 心配りが伝わる言葉遣い
 - (3) 身の回りの環境を美しく整える（清掃、整とん）
- 3 特別活動 「愛校心・郷土愛の醸成」
 - (1) 共感的協働力に支えられた学級集団、学年集団の育成
 - (2) 東中三大自慢を軸とした生徒主体の活動の充実
 - (3) ふるさとキャリア教育の充実
 - (4) ボランティア活動の推進
- 4 安全・安心な学校づくり
 - (1) 登下校時の交通安全指導の徹底
 - (2) いじめ・問題行動等の早期発見、早期解決
 - (3) 教育相談、生徒支援の充実→新たな不登校を作らない

共感的協働力の育成
「子どもの最高の姿を見せる」

学校教育の向こうにあるゴール

高い志をもってふるさとを支えることのできる人材の育成

自己評価 Aと外部 評価の評 価区分	きわめて良好	自己評価 Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して100%達成
	良好		4	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して80～99%以上達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60～79%以上達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して40～59%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して39%以下の達成

ア
生徒の
状況

I 自主的・自律的な生活

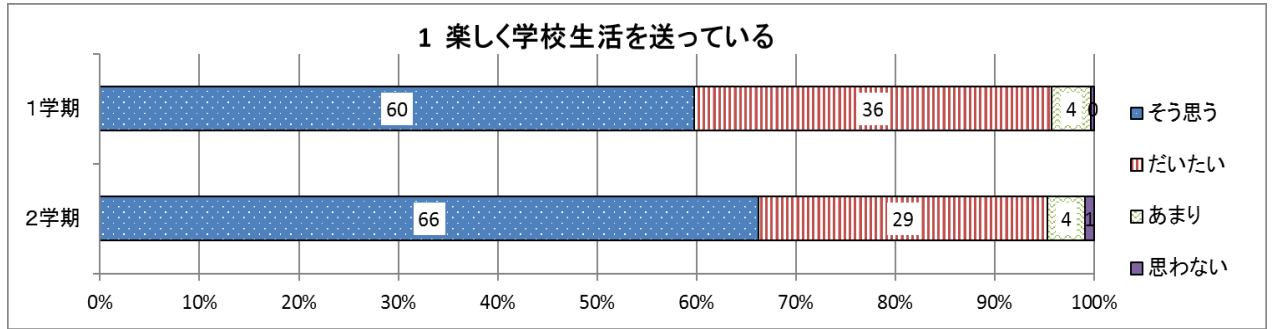
生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	良好といってもよいが、挨拶に関して、「そう思う」という割合が若干少ないのが残念である。2年生が、全ての項目で「そう思う」という割合が他学年に比べて低いので、引き上げられるよう工夫してほしい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	学校の取り組みの成果が、生徒アンケートに示されている。社会生活において大切なことばかりなので、今後きまりの理由をしっかりと伝えていくことがポイントになると思われる。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】	全学年とも約95%以上の生徒が「楽しく学校生活を送っている」と回答している。元気なあいさつや清掃への取組は昨年度より数値が下回っている。教師アンケートでも、同様の結果であり東中の自慢と言えるためにはもう少し意識を高くもたせたい。相談活動の面については、悩み事を相談できると回答した生徒が多く、良い傾向である。毎月月末に行っている「振り返りカード」を活用し、速やかに相談活動につなげることはもちろんであるが、日常の観察を丁寧に行い、気になる生徒については情報共有し、即時対応につなげていきたい。		
	【後期（→次年度）】	後期は「楽しく学校生活を送っている」の数値が上がった。しかし、「悩み事を相談する人がいる」の数値が若干下がっている。学校生活が充実している人が増えた反面、悩みを抱えている生徒が出てきているので、月末の「振り返りカード」や日々の生徒とのコミュニケーションの中で敏感に察知し、対応できる教師集団でありたい。挨拶に関しては、数値は上がっているが、挨拶は日々のコミュニケーションを好意的に行うためのきっかけである。今後も、友好的な人間関係、充実した学校生活につながっていく挨拶ができるよう働きかけていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通したあいさつ運動 清掃指導	3	3
	(2) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化 週番活動		
2 相談活動の充実	(3) 生徒指導の三機能を生かした指導	教育相談 人間関係づくりの推進	3	3
	(4) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート アセス 保健室や家庭との連携 スクールカウンセラーや外部機関との連携		

【評価指標 1】 基本的な生活習慣

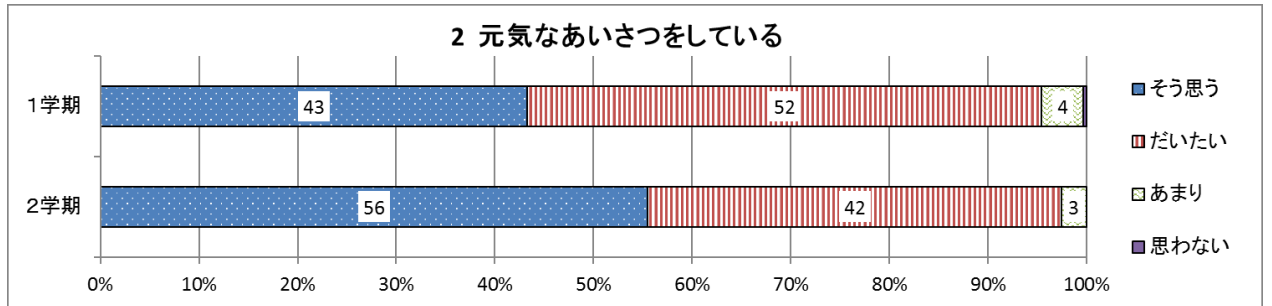
生徒

1 学期
3.55
↓
2 学期
3.61



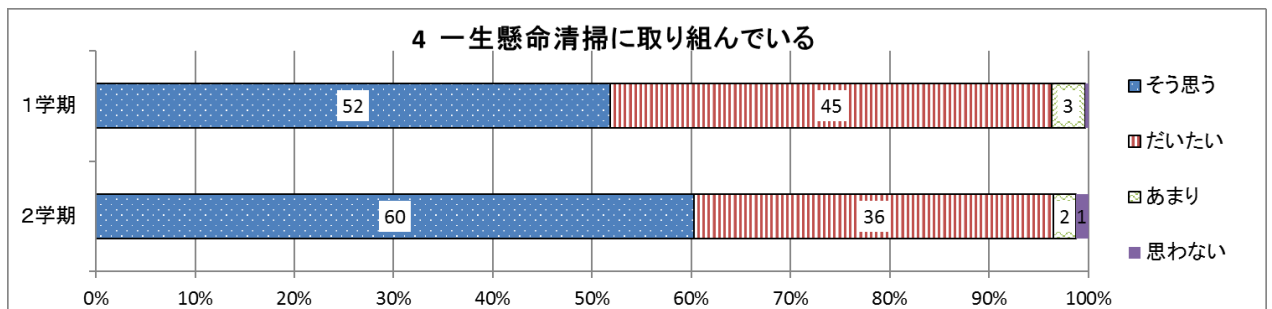
生徒

3.38
↓
3.53



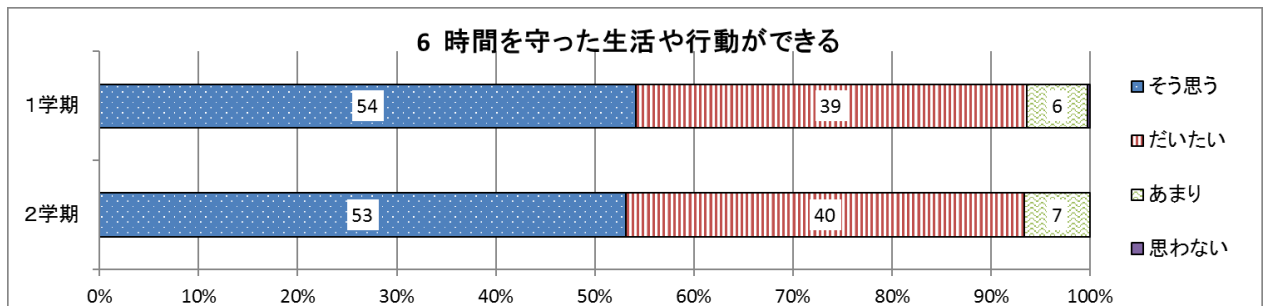
生徒

3.48
↓
3.56



生徒

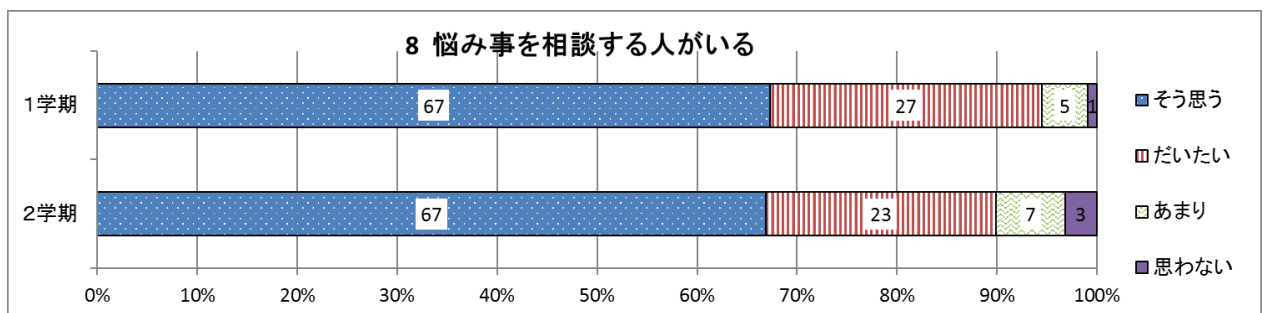
3.47
↓
3.47



【評価指標 2】 相談活動の充実

生徒

3.61
↓
3.54



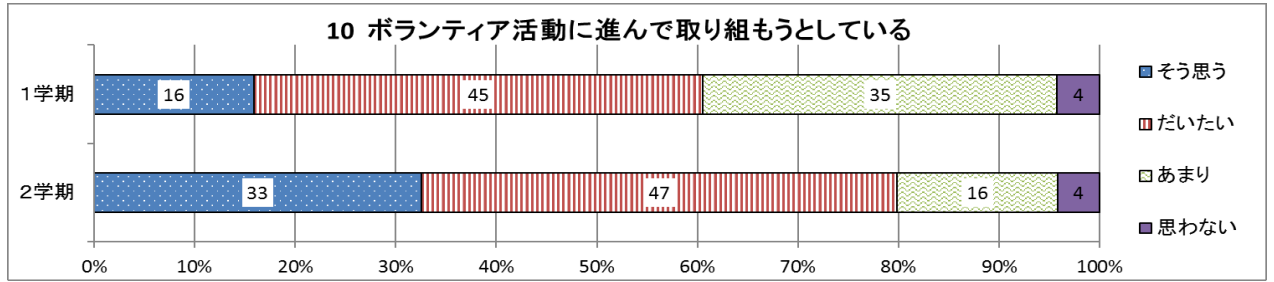
Ⅱ 思いやりとたくましい心

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	三大自慢である「東中太鼓」はコロナでなければ、もっと披露できたと思う。ボランティア活動は、コロナの影響が大きく、やりたくできもできない状況であるが、その中でも有意義な活動が行われている。
	後期	おおむね良好	良好	心身共に健康であることが、数値から伺うことができる。コロナ禍において、「おみやげプロジェクト」や「東中祭」など学校行事が行われ、生徒にとっては大きな自信になっていることが、高く評価できる。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】 「豊かな体験活動」については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、校内外での活動が延期や中止、規模縮小となるものが多かったため、「ボランティア」に関する数値が昨年度よりも低下したと捉えている。昨年度立ち上げた「お土産プロジェクト」は、今年度も継続して活動が行われており、プロジェクトメンバーだけではなく、全校生徒の参加の下、愛校心や郷土愛の醸成、将来ふるさとを支えようとする自立の気概をもった生徒の育成につながる活動になっている。</p> <p>「共感的協働力」や「学級内での人間関係」等、「集団活動の向上」についてのアンケート項目は、いずれも昨年度より高い数値を示している。これは、規模縮小ながらも学校行事が行えたことが、生徒にとって集団での所属感や共感的協働力を高めることにつながったと考えられる。また、東中三大自慢も実施2年目となり、生徒に浸透してきていることが数値の向上からうかがえる。</p> <p>2学期には、学校祭や地域での東中ボランティアなどの体験活動を実施予定である。これらの機会を生徒が自分の進路や将来について考えを深める大事な機会と捉え、生徒の意識を更に高めていきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】 コロナ禍も2年目となり、新しい生活様式が定着してきた事もあって、体験活動、学校行事が例年に近い形で実施することができた。このように様々な行事が本来に近い状態で実施できたことが、「ボランティア」「体験活動」「人間関係」「東中三大自慢」についてのアンケート項目において、いずれも昨年度より高い数値を示すことにつながったと考えている。</p> <p>特に実施2年目となった花善とのコラボ企画「おみやげプロジェクト」では、プロジェクトメンバーを中心に意見を出し合いながら、学校単位で企画を進めたことが郷土愛の醸成につながったと捉えている。</p> <p>一方、「学級内の人間関係」に関する項目では、高い数値を示してはいるが、次年度以降、学級内の各種活動において、集団への所属感や自己有用感を更に高めていきたい。また、次年度は「東中三大自慢」も3年目となり、より一層磨きをかけていく段階となるため、生徒主体で活動が進むように教職員からの適切な支援を続けていきたい。</p> <p>ここ数年で地域の人口減少、生徒数減少、またそれに伴う教員数の減少により、以前のような活動ができなくなってきたと感じる。特別活動を充実させることは生徒の成長につながるだけでなく、学校全体、地域の活性化の観点からも大切ではあるが、これからは東中学校が成長・発展していくために「持続可能」で「誰にとっても」有意義なものになるように学校行事についても見直しを図っていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな体験活動	(5) 愛校心、郷土愛の醸成 ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導	東中ボランティア、きりたんぼ祭りボランティア 子どもハロワークへの参加 おみやげプロジェクト 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生	3	3
4 集団生活の向上	(6) よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通じた道德教育 学級プログラム・係活動での一人一役 鳳凰集会などの話合い	3	3
	(7) 共感的協働力を高める集団活動	東中三大自慢－あいさつ・歌声・東中太鼓－の推進 学校行事や生徒会行事の充実		

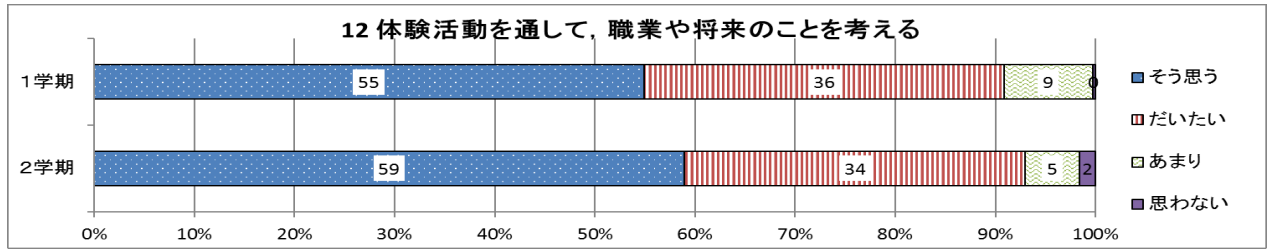
【評価指標3】豊かな体験活動

生徒
1学期
2.72
↓
2学期
3.08



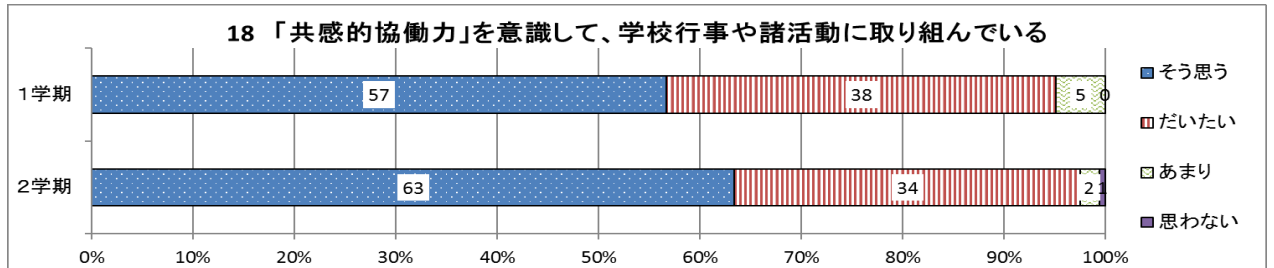
生徒

3.45
↓
3.50



生徒

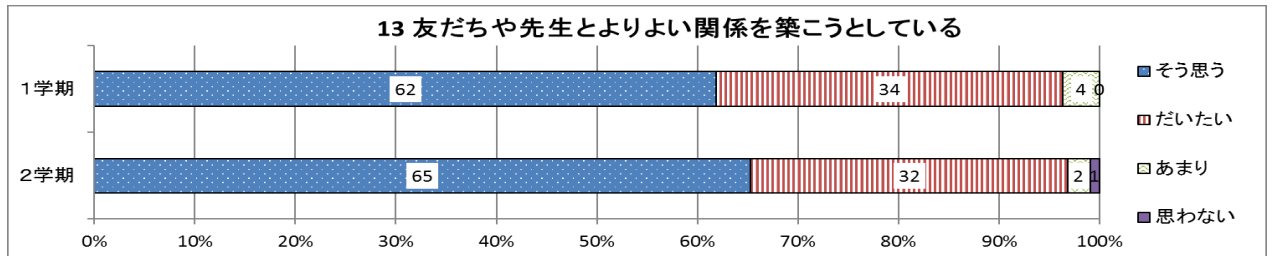
3.52
↓
3.60



【評価指標4】集団生活の向上

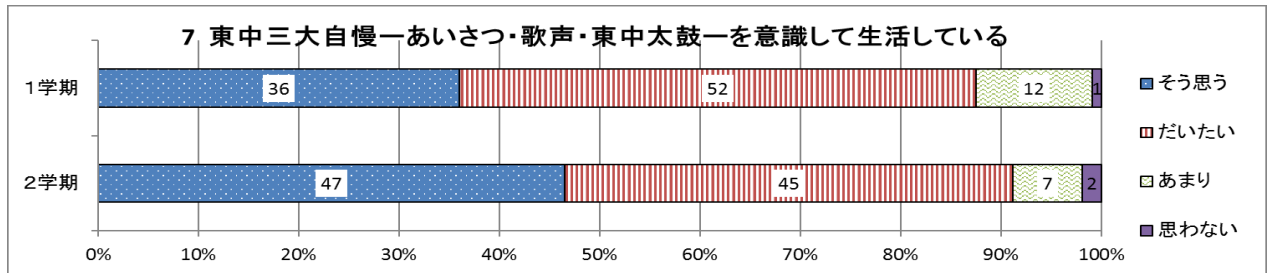
生徒

3.58
↓
3.61



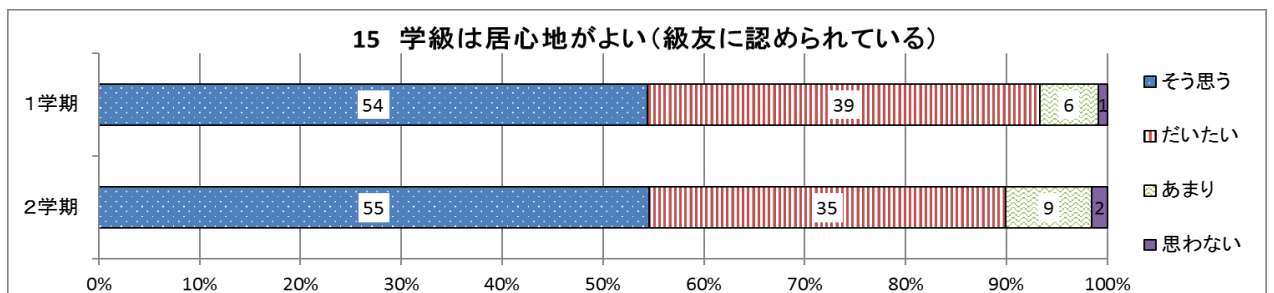
生徒

3.23
↓
3.36



生徒

3.47
↓
3.43



Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付けている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	この項目も、2年生が低い。学び方にはどのようなスタイルがあるのが、方法論をアドバイスしてほしい。新しい知識を学んだら、自慢する機会を設けるなど、おもしろい知識に触れることで、学ぶことの楽しさを実感させてほしい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	生徒は、学びに関して真摯に取り組んでいた。家庭学習ノートを生徒同士で見合うなど、切磋琢磨しながら、学習に向かわせている取り組みも評価できる。

自己評価の概要と学校の改善策

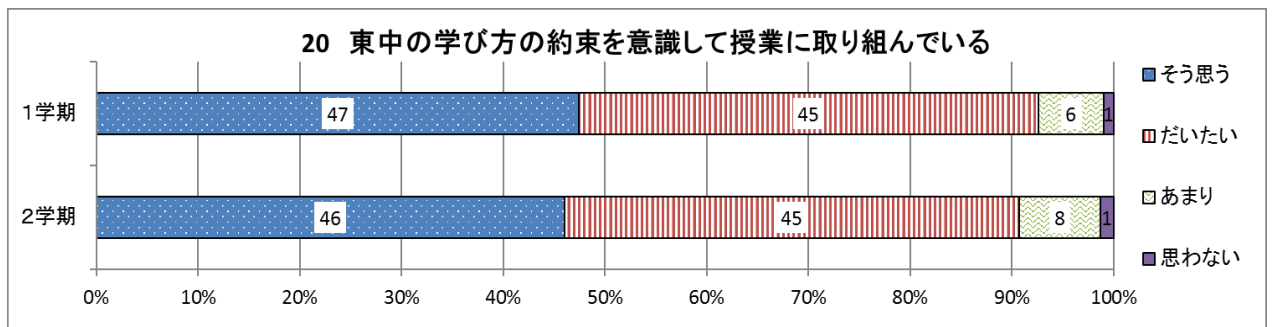
【前期（→年度）】
 今年度は、「東中の学び方の約束」を提示し、授業で取り組むべき約束事を、4月の学習集会で教師と生徒で共通理解し、実践してきた。「東中の学び方の約束を意識しているか」の設問に対して、肯定的に答えている割合が、1年生95%、2年生87%、3年生96%と、おおむね良好であった。しかし、取組状況が教師によってまだまだ差があるので、教師側の意識を更に高め、取組を強化していきたい。
 教師アンケート「東中スタンダードを意識している」の設問には、肯定的な回答が94%であった。夏季休業中に行った校内研修会で振り返りと反省を行ったので、授業の基礎・基本と深い学びを創る教師のコーディネート編を再確認し、2学期の授業改善に努めたい。
 「効果的な家庭学習を行っている」（生徒）「家庭学習の習慣が身についている」（保護者）については、生徒・保護者共に70%以上が肯定的に回答している。今後も、学級担任や教科担任が教育相談などを活用し、一人一人に合った学習方法を提示していきたい。また、テスト前などの学習に対して意欲が高まる機会を逃さず、ノートを見合う会などを設定することで、自身の家庭学習を振り返り、より質の高い家庭学習になるように支援していきたい。

【年度（→次年度）】
 生徒アンケート「東中の学び方の約束を意識して、授業に取り組んでいる」、教師アンケート「東中スタンダードを意識して、授業を行っている」の、肯定的な回答の平均は前期とほぼ変化はなかった。授業の指導の基本について、もう一度共通理解をし、日々の授業実践に生かしていきたい。生徒の授業に向かう姿勢も前期同様、良好であり、基本的な学習習慣の確立が、主体的な学び、深い学びへとつながっていると感じる。
 充実した家庭学習については、保護者アンケート「家庭学習の習慣が身に付いている」は、肯定的な回答の平均は前期とほぼ変化はなかった。生徒アンケート「家庭学習ノートを活用し、自分に合った効果的な家庭学習を行っている」で、肯定的な回答が上昇した。後期では、定期テスト前に学級で家庭学習ノートを見せ合う機会を設定する取組をした。他の生徒のよいところをまねしたり、自身の勉強の仕方を見直したりするよい機会となった。今後も工夫した取組をし、生徒と保護者の意識を高めていきたい。

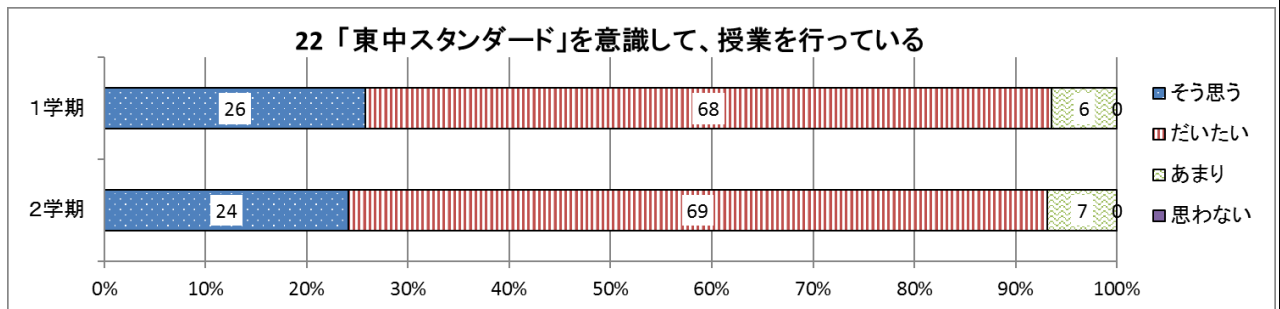
評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価B	
			前期	後期
5 基本的な学習習慣	(8) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	3	3
6 充実した家庭学習	(9) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	3	3

【評価指標5】基本的な学習習慣

生徒
1学期
3.39
↓
2学期
3.35

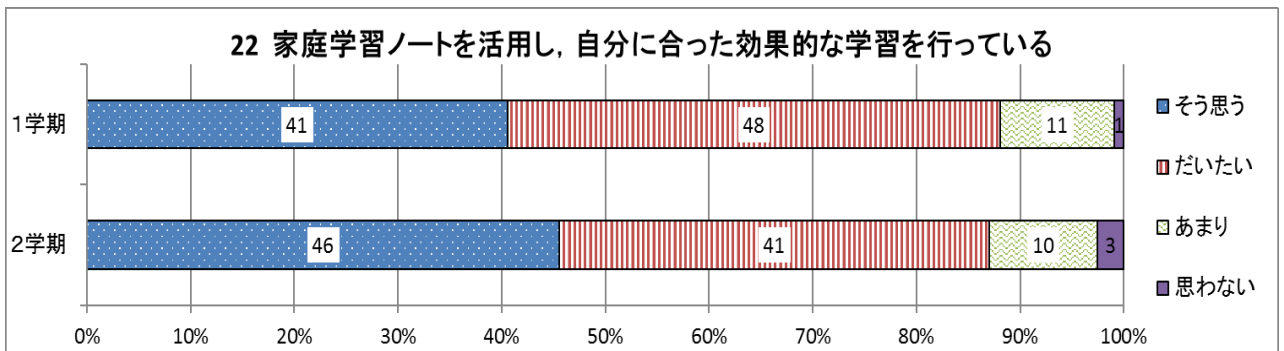


教師
3.19
↓
3.17

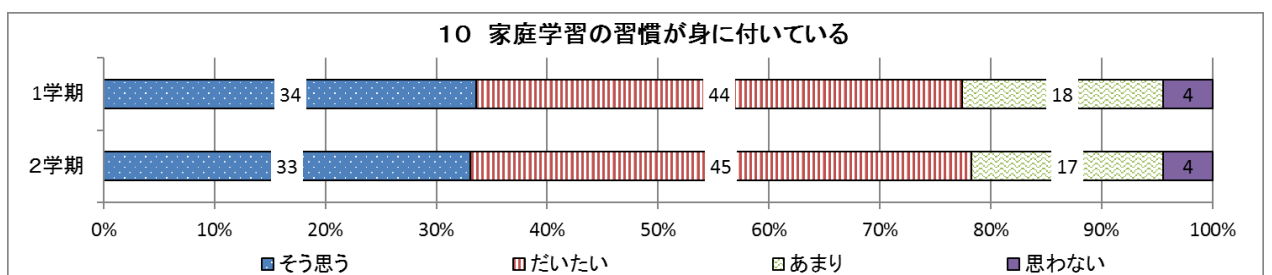


【評価指標6】充実した家庭学習

生徒
3.28
↓
3.30



保護者
3.07
↓
3.07



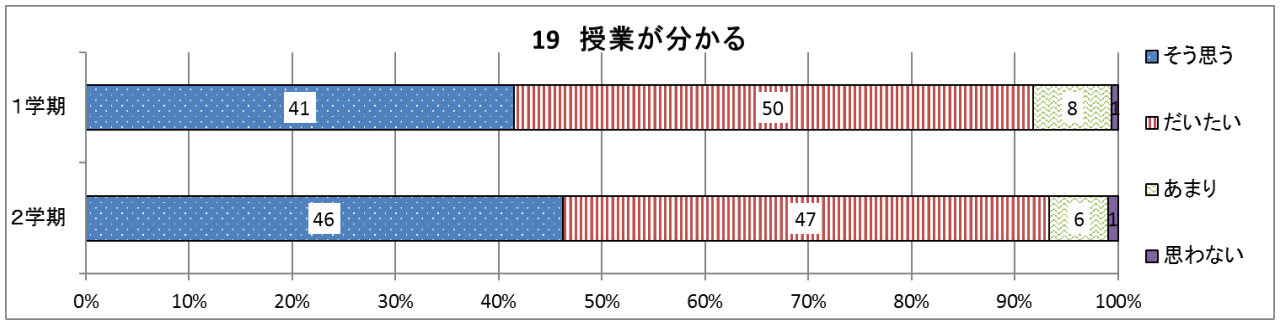
IV 教師の研修

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	良好	良好	先生方も、生徒も大変元気があった。先生方のコーディネートも年々ようになっており、3分程度の参観ではあったが、姿勢や視線がしっかりしており教室の雰囲気がよく、授業の準備や進め方がよかった。
	後期	良好	良好	先生方は非常に熱心に指導にあたっている。指導力も高い。よい授業をしている先生がたくさんいたので、分かち合いながら指導力の向上に努めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「授業が分かる」の数値がR2（年度末評価）3.80点から3.33点と下降しているが、同時期のR2（前期評価）3.25点と比較すれば、+0.08点上昇している。学年によって授業への意識・取組に差が見られるが、すべての生徒にとって「分かる授業」を目指すべく、授業改善に力を入れていきたい。</p> <p>また、「先生方は熱心に授業をしている」という項目では、3.78（前年度末比-0.02）の数値だった。ほぼ100%の生徒が肯定的に評価しており、東中実践の軸である「鳳凰タイム」の実践に力を入れながら、今後も生徒にとってやりがいのある授業を全職員一丸となって目指していきたい。</p> <p>5月の校内研修会では、昨年度行った研究授業の映像を見て、本校の共通実践事項の確認を行い、今年1年間の研究の見通しをもった。また、夏休みには新学習指導要領が求める学習評価の実際や、各教科の「見方・考え方」「鳳凰タイムの深化」について研修を行った。コロナ禍の中で、様々な制限が求められる現在だが、生徒の未来のために歩みを止めることなく、生徒と共に前へ進んでいきたい。</p> <p>【年度（→次年度）】</p> <p>今年度は「社会・理科・英語」の校内研究会、「国語科」「総合的な学習の時間」の大館市教育研究会での授業提示など、多くの場面で東中生の頑張りを引き出すことができた。参観した北教育事務所の指導主事や、他校の先生方からも、はつらつとして学ぶ東中生の姿にお褒めの言葉をいただいた。特に、自分の考えを根拠をもって表現する力や、男女関係なく上手に関わり合いながら学ぶ力が高く、今後も東中生のよさとして伸ばしていきたい。</p> <p>生徒アンケートでは、「授業が分かる」「先生方は熱心に授業をしている」の数値、教師アンケートでは「『鳳凰タイム』を設定し、生徒が互いに学び合い高め合う姿を引き出している」「研究部報や研修会で学んだことを指導力の向上に生かそうとしている」の数値が、前期から上昇、または同程度の高い評価となっている。「各教科の見方・考え方」を明確にして授業を展開し、「鳳凰タイム」による学び合いで生徒が活躍する授業をつくり出そうとしてきた、研究の成果と捉えたい。今後は、一人一人の学びの状況を諸テストやアンケート結果から丁寧に見取り、どの生徒にも「確かな学力」を定着できるように指導改善を重ねていきたい。</p>			

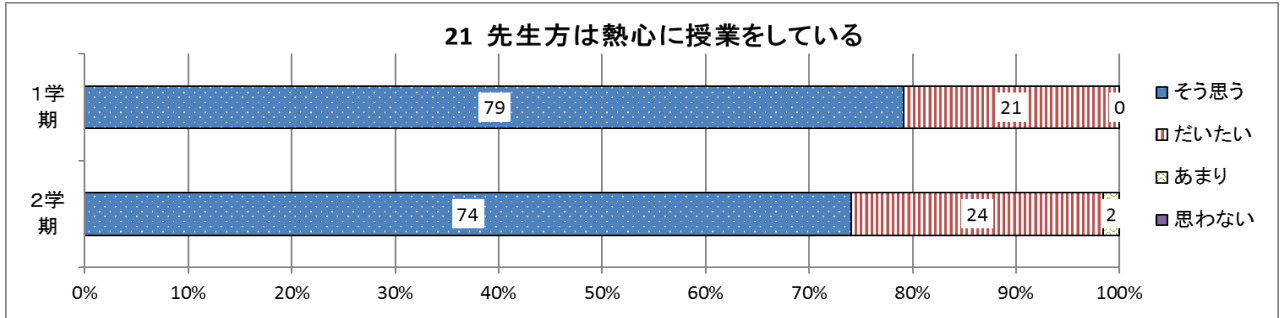
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 授業改善の推進	(10) 単元構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	3	3
	(11) 共感的・協働的な学びの追究	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実		
8 研修の実施及び活用	(12) 研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	4	4
	(13) 各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

【評価指数7】授業改善の推進

生徒
1学期
3.33
↓
2学期
3.39

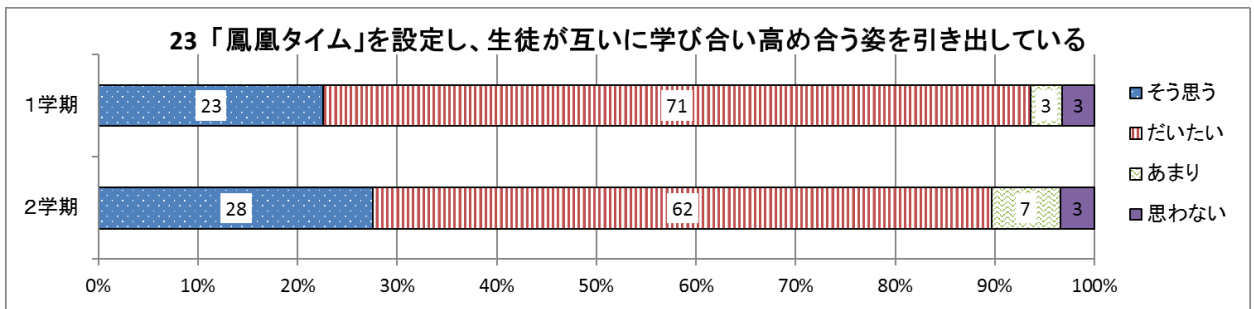


生徒
3.78
↓
3.72



教師

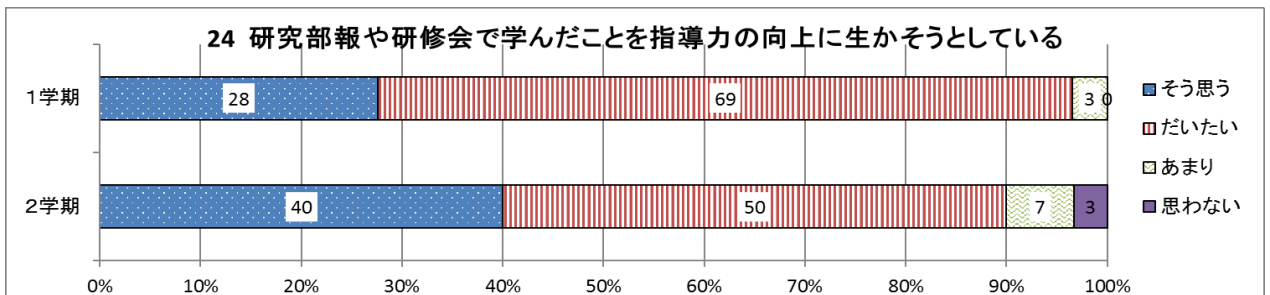
3.13
↓
3.14



【評価指数8】研修の実施及び活用

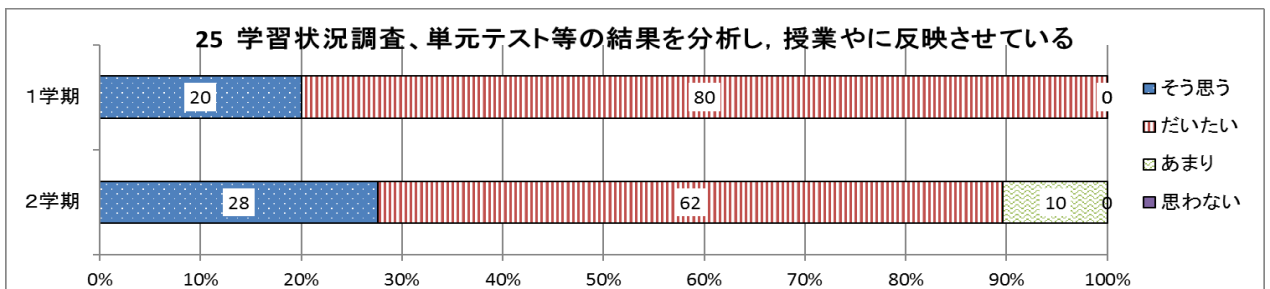
教師

3.24
↓
3.27



教師

3.20
↓
3.17



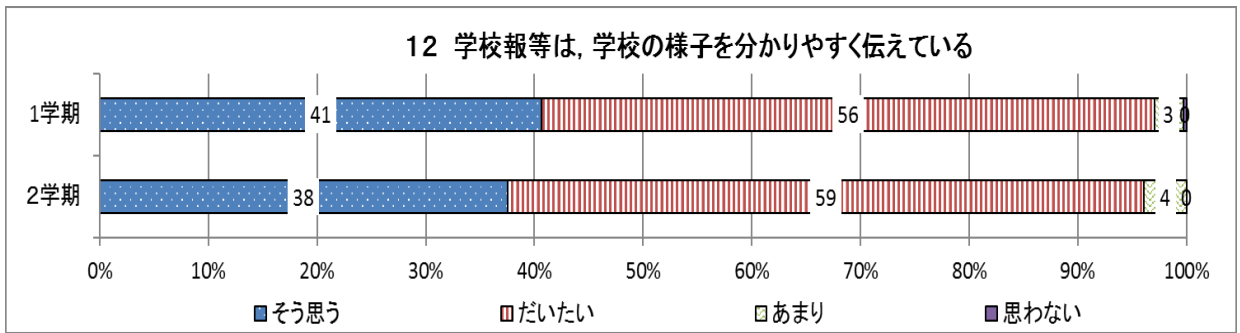
V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。	前期	良好	良好	学校の地域や保護者との良好な関係がうかがえる。子どもたちの声があると、地域も元気が出る。地域が急速に変化しており、地域との関わりは意思疎通が難しいが、今後も、無理せず連携してほしい。
	後期	良好	良好	地域の方々の学校に対しての期待は大きいですが、しっかりと応えている。コロナ禍で思うように活動できないが、社会や地域の課題に目を向け、自分たちの地域を自分たちの力でよくしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「学校だよりや学年だよりは、学校の様子を分かりやすく伝えている」については、肯定的な回答が全校で97%であり、極めて良好である。学校評価保護者アンケートの自由記述にも、「学級・学年だより、メール等で学校の様子がよく分かりありがたい。」との声が多かった。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で96%で、コロナ禍で活動が制限されているにもかかわらず、本校のPTA活動が充実していることがうかがえる。</p> <p>「学校は地域との連携に取り組んでいる」については、肯定的な回答が全校で97%であり、極めて良好である。今後も、地域貢献やボランティアの意義を理解させながら、東中生の最高の笑顔を地域に届けられるように様々な活動に取り組ませたい。</p> <p>また、教師の85%が、地域の人材を有効に活用していると答えており、職場体験学習等において地域の方々の協力が大きいことがうかがえる。今後も、生徒に身に付けさせたい資質・能力や1時間1時間のねらいを達成するための効果的な活用方法を探っていきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】</p> <p>「学校だよりや学年だよりは、学校の様子を分かりやすく伝えている」については、肯定的な回答が全校で96%であり、前期同様、極めて良好である。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で91%で、保護者の方々が学校に対して協力的であり、本校のPTA活動が主体的に行われていることがうかがえる。</p> <p>「学校は地域との連携に取り組んでいる」については、肯定的な回答が全校で99%であり、前期より上昇した。極めて良好である。花善×東中コラボおみやげプロジェクトや、東中ボランティアなどで、保護者や地域の方々と連携し、地域に貢献することができた。また、総合的な学習の時間の全校集会において、ふるさと大館のために自分ができることについてじっくりと考え意見交換することで、自分の未来とふるさとの未来を切り拓こうとする気概を育てる事につなげることができた。今後も、地域とのつながりを大切にしながら、将来高い志をもってふるさとを支えることのできる人材の育成に努めたい。</p>			

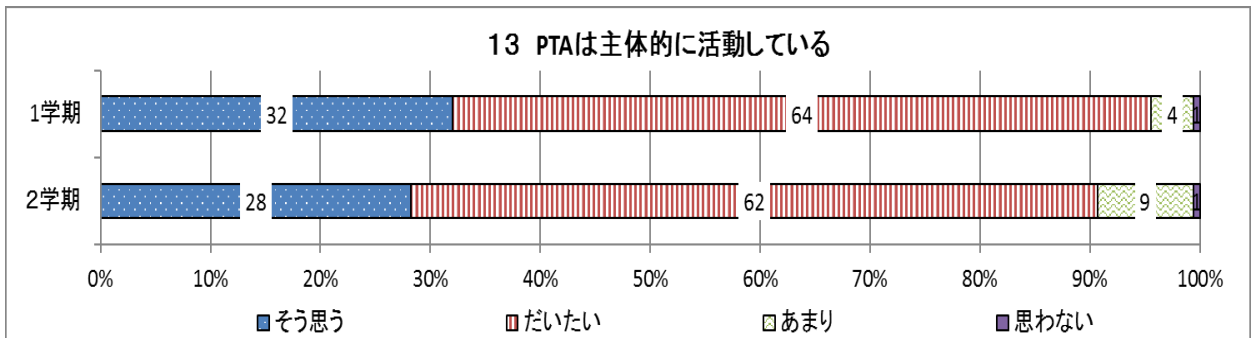
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 保護者との連携	(14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの充実 ホームページ、連絡メールの活用	4	4
	(15) 行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10 地域の教育力の活用	(26) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	3	3

【評価指標9】保護者との連携

保護者
1学期
3.37
↓
2学期
3.34

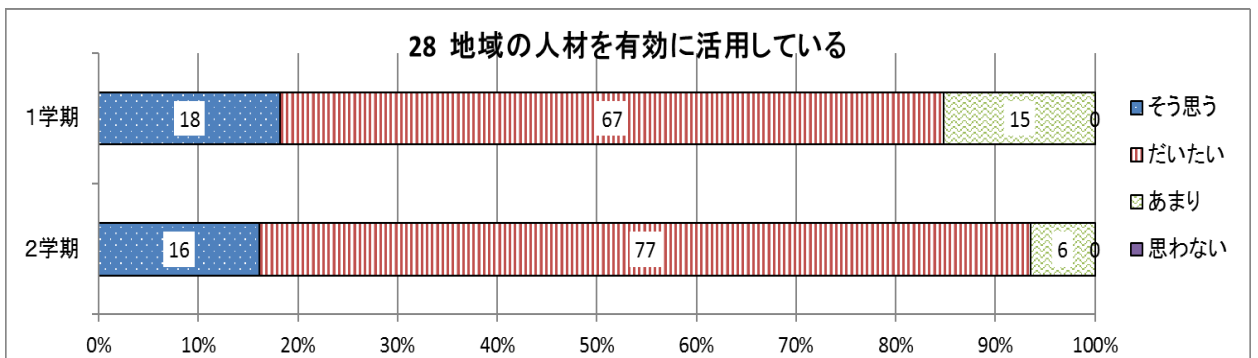


保護者
3.27
↓
3.18



【評価指標10】地域の教育力の活用

教師
3.03
↓
3.10



保護者
3.40
↓
3.44

